



花だより

鳥だより

ポロト案内舎 2020年 12月 108号



いつもの年は、12月の中旬にドカッと降って、そのまま根雪になるのですが、今年は年末ぎりぎりまで雪のない景色でした。もうすぐ年が変わるころに、さらっと雪が降り、白いお正月を迎えられそうです。



ポロト沼のタンチョウ



冬を迎え、ポロト沼はタンチョウの食べ物が少なくなってきたようです。朝姿を見せても、すぐに沼から飛び立っていきます。夕方に戻ってくることもあります。そのまま2, 3日姿を現さないことが多くなってきました。今年はいつまで見られるのかな?と置いていたら、7日が最終日になりました。さて、このタンチョウカップルは、どこに行ったのでしょうか? オスがNo.316の足輪をしているので、消息はつかめそうです。どこかの給餌場に現れているのかもしれないね。



こんなところに



案内舎から 50m くらい上った裏の林に、トドマツが 3 本立っています。ハシボソガラスの巣があったり、冬にはノスリやオジロワシが梢にとまったりする木です。エゾシカたちの通り道の脇に立っているため、秋には角研ぎに利用され、樹皮がはげ、鋭いひっかき傷がついています。オスジカにつけられた傷のさらに上に、4 本の新しい傷を見つけました。明らか

にクマの前足でつけられた傷です。それほど高い場所にあるわけではなく、爪の間隔も狭いので、まだ若いクマのものだと思います。しかし、家からすぐの場所にクマが来ていたことを考えると、ちょっとびっくりです。

今年は 10 月に 2 度、ポロト沼でクマを見かけました。コロナの影響でお客さんが少なかったため、人の気配が薄くなっていたのかも知れません。人の活動が少なくなると、すぐに野生が進出して来る、そんな人と野生の狭間に暮らしていることを感じました。



冬はノスリ



夏はほとんど見かけない小型のタカの仲間のノスリですが、冬はいたるところで目にします。案内舎の使われなくなったアンテナは、ノスリ専用止まり場になっています。日中、アンテナにじっと止まって、地面を見つめています。ヤチネズミを探しているのです。

車で走っているときも、電柱の上や道路標識にとまるノスリを至るところで見かけます。彼らがとまり場

から飛び立ち、ネズミを捕まえる光景にはなかなか出会えませんが、それなりに成果は上がっているのでしょう。飛び回ってネズミを探す、コミミズクやハイイロチュウヒ、チョウゲンボウなどより、エネルギーを使わず、効率の良いやり方だと思います。

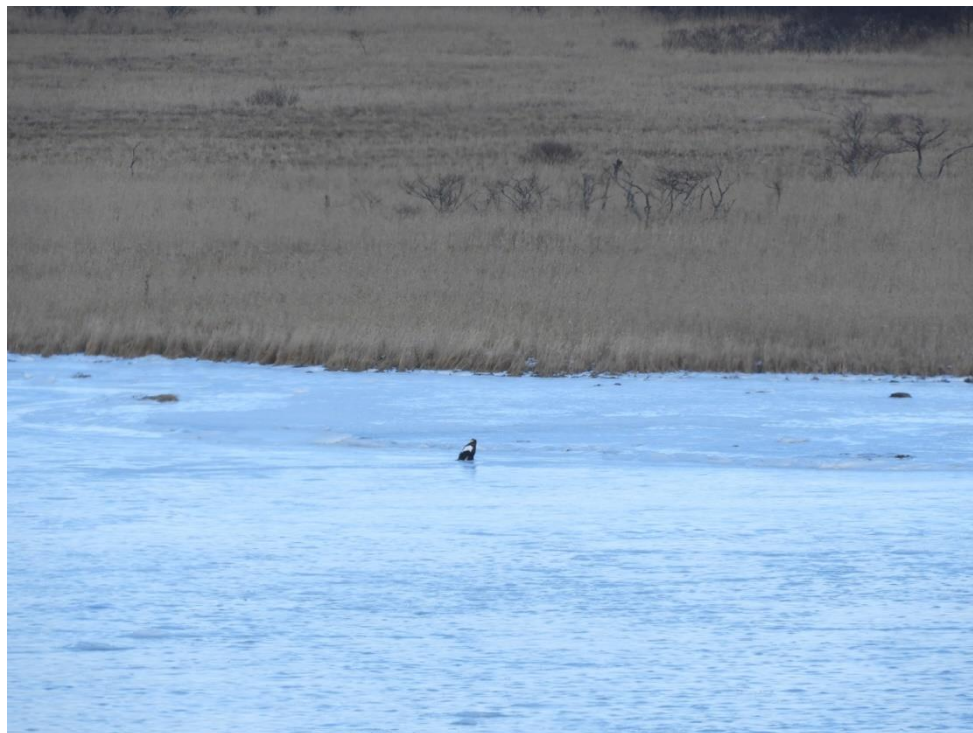


ポロトのオオワシ



頑張ってポロトに居続けるオオワシがいます。ポロトの森をねぐらにし、明るくなると沼に飛んできます。岸辺の電柱の上にとまり、日がな一日、沼を眺めて過ごします。

12月のはじめまでは、サケの遡上がわずかながらあり、何とか糊口をしのげていたようですが、年が押し詰まってくると、もういけません。沼の大半が凍り、獲物の影が無くなりました。水面に集うカモを狙って、沼の上を飛び回っても。小回りの利くカモたちに追いつけません。



それでも居残るオオワシが、凍りついた沼に降りていました。氷に閉じ込められた魚が見つかることがあります。それを期待しているのでしょうか？



ポロ、大きくなりました



1月生まれのポロはもうすぐ1歳。5kgだった体重は6倍に増えました。以前のクロとほぼ同じ大きさで、見た目もそっくりです。しかし、性格は全く違います。ボール遊びが大好きだったクロとは違い、ボールに関心がありません。フリスビーも興味なし。こんな所はシロに似ています。

大きくなった今も階段が苦手。上れても降りれません。階段の踊り場までは行くのですが、そこで立ち往生。降りることも上がることもできず、途方に暮れてしまいます。こんな時は、重たいポ

ロを抱えて階段を下りる羽目になります。

人見知りな性格で、初めての人には慎重です。こんな所も、シロやクロとは大違い。人に飛びかかることがないので、安心して案内舎のお客さんにも紹介でいきます。初日は臆病でも、2日目には自分から近づき、手を舐めたり顔を近づけたりします。黒眼でかわいい顔をしていますので、いろんな人にかわいがってもらっています。

